

APPEAL

発行者
JR 東海労関西地本
大阪台車検査車両所分会
2013年12月10日
NO.52

現代版治安維持法 = 特定秘密保護法 の強行採決を考えよう！！

12月6日、政府は参議院において与党（自民党、公明党）の圧倒的な数の力を背景にして、特定秘密保護法を強行採決しました。

私たちは現代版治安維持法といわれる特定秘密保護法の強行採決に断固抗議します！！

最近、行われた世論調査によると、特定秘密保護法案に対して反対は50%以上という結果でした。強行採決が迫った4日には全国各地で特定秘密保護法案に反対する集会が行われました。このような状況であるにも関わらず、**政府は民意を無視して、特定秘密保護法を強行採決したのです。**

特定秘密保護法が成立したことにより、国民は知る権利を失ってしまいます。特定秘密の指定は政府が行うわけですから、政府にとって都合が悪い情報は政府によって隠されてしまいます。私たちの生活を直接脅かすことさえも『特定秘密』に指定されてしまえば、知ることができないばかりか、知ろうとすることさえも罪になり罰せられてしまうのです。何が特定秘密なのか？私たち国民には公表されないのですからたまったものではありません。

これでは、**私たち国民はどんなにおかしいと感じても、何も物が言えなくなってしまう**。まさに特定秘密保護法の成立により、この国の民主主義は無くなったのも同然になりました。

かつてこの国には、戦前から戦中にかけて治安維持法という悪法がありました。戦争に反対する国民に対して、あらゆる理由をつけて弾圧・逮捕し、言論の自由を奪い、命さえも奪ってきたのです。今回の特定秘密保護法はその治安維持法を超える悪法だといわれています。

みなさん、暗黒の世の中が残念ながらそこまで迫ってきています。このまま、無関心を装っては、何十年か経った時に自分の子供や孫たちから、何故あの時大人たちは、反対の声をあげ立ち上がってくれなかったのか！といわれるのではないのでしょうか？

今、なすべきことは、これからもあきらめずに特定秘密保護法の廃止に向け多くの人たちに訴えていくことが必要です。！！

**他労組組合員の皆さん
子供たちの未来のために特定秘密保護法反対の声を大きく
作り出していきましょう！！**